



特別企画

安定的な財源の確保に取り組むクラブ



NPO法人南信州クラブ ＜長野県飯田市＞



日本スポーツ協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」で掲げる総合型クラブの基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、受益者負担を基本に、最終的には自主独立の財務運営を目指す取り組みが求められます。

そこで今回は、独自の方法で安定的な財源の確保に向けた取り組みを行っているクラブを紹介します。



1 クラブ概要

平成17年、地区内においてラグビーを普及・発展させるために、総合型地域スポーツクラブの考え方を取り入れ、西欧型スポーツクラブ化しようとの機運が醸成され始めました。

それには二つのきっかけがありました。一つ目は、ラグビーの競技人口が減り始めたこと。当地区（南信州地区）においても特に社会人においてそれが顕著に表れてきました。当時、人口10万人強の地区に三つの社会人チームがありましたが、そのうち一つが活動休止状態となりました。理由は、高校の部員減による卒業生の減少と、進学者の増加による地元就職者の減少でした。二つ目は、地区内ラグビー活動の組織が未整備だったことが挙げられます。何歳になってもラグビーをする場所とメンバーがそろう外国と異なり、当地区では社会人チームは同窓で同年代による構成が基本で、結成後10年を経ると身体的な衰えもあり競技継続ができなくなり、結果的にチームが衰退に向かうということが繰り返されてきていました。

折しも、現クラブマネジャー（筆者）が総合型地域スポーツクラブの創設・支援に関係する部署（県教育委員会）に異動。県内全体を管轄する傍ら、地元においてはラグビーを中心とした総合型地域スポーツクラブを創設し上記課題の解決を図ろうと動き始めました。

ラグビー人口減少を危惧→中学生にラグビーの場を提供

そこで、多世代のクラブをつくるために二つのことに取り組みました。一つは中学生への機会の保障により地域内ラグビーの縦軸を構築すること。二つ目はラグビー関係者全員が最低年に一度は集まる機会を設け、年齢に関係なく皆が地元のラグビー仲間だということを感じてもらう機会をつくることです。

当時この地区は中学生が活動する場がありませんでした。小学生・高校生・社会人の活動は盛んでしたが、中学校に部活動がないことに加え、ラグビースクールは小学生の指導が主であり、子どもたちは中学に入学すると在籍校の運動部活動(ラグビー以外の種目)に所属することにより、高校入学時に再度ラグビーに戻ってくる子どもが減ってしまっていました。

具体的には、平成18年度から中学生ラグビー教室として月・水・金の週3日間活動し、土曜日は各スクールで取り組んでもらう機会を設けました。それは、在籍中学校において運動部活動に所属せずラグビーに専念できる環境をつくること、そして他県の部活動に劣らない機会を設けることで満足して取り組んでくれることを目指しました。それには本人・家族の理解、活動場所・コーチの確保が必要であり、本人と家族には小学校卒業時に説明会を開催。活動場所は市及び高校の施設。コーチは高校のラグビー部顧問と自営業のラグビースクール関係者に依頼しました。

ここで最も留意したのは、場所とコーチを高校関係にすることでした。中学生が常日頃高校で練習することにより、その高校を意識して進学につながられます。また、高校の顧問が教えることにより、中学3年間ではなく中高の6年間で成果を出す指導方針が可能となり、中学生をいわゆる燃えつき症候群にさせず高校につながるメリットもあります。二つ目は、フェスティバルの名のもと年に一度全員が集い、それぞれの年代によるゲームを実施することに加え、地元出身者が所属する大学や社会人チームを招待し、レベルの高いゲームを観戦する機会を設定することでした。

活動を開始した1年後の平成19年3月には、将来的に総合型地域スポーツクラブ設立を目指し、組織名を「南信州クラブ」としました。その名称には、南信州地区においてラグビーだけではないスポーツ活動を行うクラブであるとの意味合いが盛り込まれています。

ラグビー中心に地区のスポーツ振興図る

上記活動に取り組んで数年が経ち、ラグビースクールの小学生もほぼ全員中学生ラグビー教室に参加、小中高の一貫指導体制も確立され、この地区において自他ともに認める多世代のラグビークラブが構築されてきた平成25年、ラグビー経験のある地元会社経営者よりNPO法人化して活動の幅を広げないかとの提案がありました。目指すところは、ラグビーを中心としたスポーツによる地域の活性化であり、具体的には活動拠点の構築、市町村や各団体との協力、スポーツによる誘客が含まれています。

とりわけ活動拠点の構築においては、「南信州クラブ方式」と名付けた、クラブ独自で考案した安価で実現できる方法(『3 独自の「南信州クラブ方式」で財源確保』の項で詳述)によりグラウンドを芝生化し、そこで日常的にラグビー活動を行うことが戦力アップにつながり、また他地区から来てくれるきっかけになると考えました。

折しもクラブ内においても総合型地域スポーツクラブ化するにも、きっかけがなく停滞感が漂っていた時期でした。1年間の話し合いの後、平成26年にNPO法人化するとともに、正式に総合型地域スポーツクラブとして新たに活動を開始することができました。その際の活動のコンセプトは「南信州スポーツバレー構想」です。ラグビーを中心として南信州地区のスポーツ振興を図ることにより、誇りと愛着を持てるスポーツのまち(谷)の形成を目指すとともに、「ラグビーの活動拠点構築」「地区内スポーツ活動すべての連携と団結」「スポーツ拠点づくりとスポーツコンベンション機能の充実」を目指して新たな活動を開始しました。

NPO法人化→市町村と委託契約、協力者の増

NPO法人化した目的は二つ。一つ目は、活動拠点構築に伴う市町村との連携には、契約締結においても法人化が必要であること。これにより、ある町のグラウンドを芝生化し管理業務として委託契約を結ぶことができました。二つ目は、法人化して新たな活動に取り組むことを大々的にPRすることで協力者を増やすことです。現在はラグビー以外に、小中学生向けのテニス教室、高齢者向けの健康体操教室、芝生グラウンドがある地区では小中学生のサッカーが加わっています。

2

会費以外に賛助会員制 芝生化による委託費も財源に

当クラブは小学生も含めたラグビープレーヤーが中心であり、プレーヤーも正会員です。プレーヤーは用具代・大会参加費等は個人持ちの上、会費以外の出費が多いため、年会費の設定を高くできない事情があります。年会費は小学生500円、中学生1,500円、高校生1,000円、社会人1,000円、40歳以上1,500円、女子1,000円としています。プレーヤー以外の正会員は約140名で、年会費は3,000円です。従って、財源捻出のため賛助会員制を設け、1口10,000円以上の賛助会費を納入してもらっています。年によって異なりますが、正会員・賛助会員を合わせた会費収入は年200～300万円です。

また、当クラブの他の収入としては、芝生化に伴う委託費、有料試合開催及びテニス教室開催に伴う事業収入があります。

<会員プレーヤーの構成>

【ラグビー】小学生160人、中学生55人、高校生65人、社会人55人、女子10人＝ 計345人

【テニス】小学生4人、中学生4人、高校生7人＝計15人

【サッカー】小学生25人、中学生18人＝計43人

【総計】小学生189人、中学生77人、高校生72人、社会人55人、女子10人＝合計403人

3

独自の「南信州クラブ方式」で財源確保

財源の確保のうち独自の取り組みとしては、実際に収入を得るものと、収入の代わりに物品を確保するものがあります。当クラブでは「南信州クラブ方式」により専用の芝生グラウンドを3面構築しました。方式は2種類あり、一つは通常の1/5～1/10の金額で施工できる方式。芝生を「べた張り」などのように全面に張らず、カットした芝それぞれを30～45cm離して張るため、結果的に芝生代が大幅に削減されます。さらに、早く芝を伸ばすために特殊な肥料を使用することで、普通の肥料と比べて倍以上のスピードで芝が伸びます。もう一つは、クラブがその後の管理を1/2程度の安価で請け負うことを提案し、市町村にはスポーツくじ助成を受けてもらう方式です。

このことを活用して3つの方法で財源を確保していくことができます。ここで一番大切なことは「安く」ということです。

① 2村6保育園の庭芝生化で委託費収入 ポイントは安価

一つ目は、当クラブが芝生化事業を受託し委託費として収入を得る方法。近隣市町村に対して「グリーンドラゴン化プロジェクト」と銘打った取り組みを当クラブとともに進めようと協力を募りました。それは、この地区を俯瞰する（ふかん＝高いところから見下ろす）とき、天龍川を胴として周りの芝生施設が手足や角等に見え、まるでそこには緑色の竜が横たわっているように見える地区にしようという取り組みです。どこに行っても芝生施設があり、子育てからスポーツまで幅広く活用でき、その魅力により多くの人に移り住んでもらおうとするものです。

芝生化は安価でないと広まりません。それには実際に見てもらわなければならないと考え、近隣の村の一つの保育園の園庭を当クラブの費用で芝生化しました。それを見てもらいながら経費を説明していたところ、視察に来た他の村から引き合いがあり、経費は村の予想していた約1/3の予算で実施できることを伝えたところ、一昨年度に当クラブが受託することとなりました。そして委託費の中に作業代も計上してもらうことでクラブの収入とすることができました。その作業代も安く抑えることに配慮しています。また、その年に視察に来た他村からも依頼があり、結果的に昨年度は2村6保育園の庭の芝生化作業を受託することができ、委託費は6園で約400万円でした。

② 芝生化された公営グラウンドの管理費も収入源

二つ目は、市町村のグラウンドを、その市町村に芝生化してもらい、管理費も予算計上してもらうやり方です。行政に対してはスポーツくじ助成の活用を提案したことに加え、当クラブが行うと通常より管理費が安くなることを説明し理解を得て、ある町では平成26年に普段使われていないグラウンドを芝生化してくれました。専用の芝刈り機も町で購入してくれました。そして、当クラブが管理することにより、当クラブが利用できる約束も取り付けることができました。

通常より管理費を安く抑えられる要因は、一部専門業者に依頼する以外の管理を当クラブ員で行うことにあります。例えば、少年ラグビーのコーチが次の練習日を念頭に機械を使い芝刈り作業。これにより子どもたちに使用させたい芝の長さで刈ることができるメリットもあり、スプリンクラーの管理もコーチが行います。肥料散布は当クラブの施設開発部の担当者が当クラブの散布機を使用して実施し、除草剤・殺菌剤散布も当クラブ担当者が農業用散布機を用いて実施しています。砂入れや草刈りはグラウンドを利用する子どもたちの保護者です。結果的に当クラブで負担すべき管理費を町に出してもらっている形となっていて、管理費は約100万円です。

③ 芝刈り機は地元企業からの寄贈→支出抑制→財源確保と同結果

三つ目は、理念の理解による物品の拝受です。NPO法人化・総合型クラブ設立時に地元金融機関・企業・行政関係者を招待し設立総会及び祝賀会を開催しました。その後、翌年度の挨拶回りの折に地元の飯田信用金庫に対して芝生グラウンドの管理用に芝刈り機(約70万円)の寄贈を依頼。自前で調達すべき物品を寄贈してもらうことで支出を抑制でき、結果的に財源確保と同じ効果が生まれています。また、前述の賛助会費を、肥料・砂・設備等を納入する業者からも頂いております。



中学生(ラグビー)



豊丘南保育園

4

指定管理の受諾を視野 更なる行政との協働を

自前の財源確保方法があるとはいえ、いまだ財政基盤が確立していません。最低あと200万円程度は確保しないと事務員を有償雇用できません。

今後新たに取り組みたいことは、市町村営スポーツ施設の指定管理の受託です。そうすることで安定した財源づくりと当クラブ職員の有効活用につなげたいと考えております。折しも、ラグビーの大会や招待試合を開催する飯田市の競技場に一昨年度から指定管理制度が導入され、本年度で3年目、最後の1年間となります。更新時には当クラブも応募したいと考えているため、この1年間をかけてスタッフの確保及び事務処理能力の向上を図りたいです。

また、新たに芝生化に取り組む市町村の確保を含め、更なる行政との協働を図りながらクラブの理念実現を達成したいと思います。

(NPO法人南信州クラブ クラブマネジャー 小澤 健)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成26年6月26日（総合型クラブとして）

所在地 長野県飯田市鼎

運営 会員数412名（令和2年3月現在）、予算規模830万円（令和元年度）

有給職員 1名

特徴 ラグビーを中心としたスポーツ活動により、県外・海外から人が集まる地域づくりに取り組んでいるクラブです。それにはまず活動拠点の構築が必要と考え、小学生から社会人までのラグビー活動が西欧のように芝生の上でできるようにと、芝生グラウンドの開発から取り組みました。また、ラグビーの一貫指導体制の確立と、多種目の共同による地域のスポーツ活動の活性化を目指して活動しています。

連絡先 〒395-0804 長野県飯田市鼎名古熊1987-5

TEL 090-3346-5155

URL <http://minamishinshuclub.org/>

E-Mail sportsrugby@mis.janis.or.jp